

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4150780015		
法人名	社会医療法人 祐愛会		
事業所名	グループホーム ゆうあい		
所在地	佐賀県鹿島市大字高津原2962-1		
自己評価作成日	令和2年1月23日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和2年2月18日	外部評価確定日	令和2年3月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者が自由に、その人らしい生活が続けられるよう、一人一人の笑顔を大切に支援しています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>ゆうあいビレッジと名付けられた広い敷地内には複数の施設があり、「グループホームゆうあい」はその一角にある。一丁目と二丁目の2ユニットである。周りの豊かな自然環境は心を癒してくれる。平成12年の開設で、これまでに積み重ねてきた質の高いケアが期待できる事業所である。利用者の人格、尊厳を大切にし、利用者一人ひとりに合わせた笑顔のある支援は、利用者の心に信頼感を芽生えさせ、それがおだやかな表情となって現れている。理念の「笑顔と愛情で接します」「穏やかに生活できるようにお手伝いします」「その方らしさを大切にします」「地域の方と交流します」は、全職員で創り上げたものであり、職員にやる気を起こさせ、利用者第一の支援に結び付けている。利用者と家族の希望を活かした年間行事、地域の獅子舞や神輿が訪ねてくる秋祭り、地域住民との交流もあるホテル祭り見学、毎月の音楽療法などは、利用者の楽しみのひとつでもあり、暮らしに変化をもたらしている。利用者や家族と十分に話し合い、希望される方の看取り介護は、職員が利用者の最期までの貴重な時間を一緒に過ごすことでもであると捉えており、利用者の安らかな最期を見送っている。</p>
--

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1丁目)	自己評価／ユニットB(2丁目)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			(事業所記入欄) 実施状況	(事業所記入欄) 実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関やリビングなどにケア理念を掲示しつつも目に入るようにしている。地域の方との交流の面で理想に近づけていない。	玄関やリビングなどにケア理念を掲示しつつも目に入るようにしている。地域の方との交流の面で理想に近づけていない。	開設当初の運営理念に地域との交流を踏まえて再検討している。また、現管理者のもとで職員一人ひとりが介護で大切にしている事を、それぞれに出し合い、現在の理念を創りあげている。理念を具体化するために行動指針も定めている。職員は自分たちで創った理念であるという思いが強く、日頃の支援に臨んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に地域の区長や民生員に参加してもらっている。近隣地域のお祭り参加や地域の消防団との防災訓練での交流など行っているが、日常的な交流ができていない。	運営推進会議に地域の区長や民生員に参加してもらっている。近隣地域のお祭り参加や地域の消防団との防災訓練での交流など行っているが、日常的な交流ができていない。	法人全体が地元の自治会に加入している。職員は地域の行事、ビレッジ周辺の空き缶拾いや除草作業などの奉仕作業、県下一斉の美化運動に出来る範囲内で参加している。地域からの認知症に関する相談にもっている。	地域住民との交流がまだ少ないことを、自分たちの課題と捉えている。地域住民に足を運んでもらえるイベントを開催したり、認知症カフェを開いて、地域住民に気軽に足を運んでもらえる事等を具体的な目標にしている。その実現を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で地区の代表者については理解を求めており、認知症サポーター養成講座を開催するなどして、少しずつ地域の方に向けた活動ができています。	運営推進会議の中で地区の代表者については理解を求めており、認知症サポーター養成講座を開催するなどして、少しずつ地域の方に向けた活動ができています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの行事や取り組みを報告し、頂いた意見を検討し実践している。	ホームでの行事や取り組みを報告し、頂いた意見を検討し実践している。	2ヶ月毎に開催されている。入居者の入退去状況や活動状況等の報告後、各委員から活発な意見や要望が出されている。地域からの情報発信と地域との関わり、利用者が季節を感じる様な取り組み、車椅子の操作方法等の介護教室開催の要望、近くを流れる河川の氾濫に対する備え、回覧板等を通じての事業所からの情報発信等、多くの意見が交わされている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1丁目) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2丁目) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議開催のお知らせを直接市の職員に手渡しに行き、会議に市の担当者に参加してもらい意見を頂いている。	運営推進会議開催のお知らせを直接市の職員に手渡しに行き、会議に市の担当者に参加してもらい意見を頂いている。	運営推進会議時だけでなく、必要に応じて行政の担当課や広域介護事業所と連携を取り合い、互いに良好な関係が保たれている。成人後見人制度に関することを問い合わせたり、自然災害に対する懸念を行政に伝えた事もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会へ出席し、定期的に勉強会を行い、身体拘束廃止マニュアルに沿って身体拘束ゼロに取り組んでいる。 玄関の施錠はしていない。	身体拘束廃止委員会へ出席し、定期的に勉強会を行い、身体拘束廃止マニュアルに沿って身体拘束ゼロに取り組んでいる。 玄関の施錠はしていない。	身体拘束3原則(切迫性、非代替性、一時性)を満たさない限り、身体拘束は行わない。これまで身体拘束の事例は無い。玄関の施錠も無く、利用者は閉塞感を感じていない。言葉による心理的な拘束も無いように、常に留意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止についての研修会を定期的におこない、マニュアルに沿って高齢者虐待防止に努めている。スピーチロックゼロの取り組みを法人全体で行っている。	高齢者虐待防止についての研修会を定期的におこない、マニュアルに沿って高齢者虐待防止に努めている。スピーチロックゼロの取り組みを法人全体で行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を実施している。必要があれば家族へ情報提供を行い活用できている。	勉強会を実施している。必要があれば家族へ情報提供を行い活用できている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面に添って説明を十分に行い、疑問点を尋ね、理解を得るようにしている。	書面に添って説明を十分に行い、疑問点を尋ね、理解を得るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1丁目)	自己評価／ユニットB(2丁目)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			(事業所記入欄) 実施状況	(事業所記入欄) 実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会やサービス担当者会議などの際に、家族の意見や不満などをゆっくり聴ける機会をもうけている。玄関に意見箱を設置している。	家族会やサービス担当者会議などの際に、家族の意見や不満などをゆっくり聴ける機会をもうけている。玄関に意見箱を設置している。	家族の面会時や用件で見た家族への対応、家族も招待しての誕生会、家族会での家族同士の交流も本音を聴ける大切な機会と捉えている。遠方に住んでいる家族には電話等で要望等を聴いている。諸意見や要望は真摯に捉え、運営に活かしている。リハビリに関する要望には、生活そのものが、リハビリであるとの理解をいただいている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、相談会を開催しており意見交換している。また、個人面談の機会を設け意見を聴いている。	毎月、相談会を開催しており意見交換している。また、個人面談の機会を設け意見を聴いている。	毎月の会議(相談会)で、支援や日常業務の課題、行事計画や改善点等を話し合っている。ここ数年は自分たちだけで司会、進行をしての会議である。その中で言葉遣いの重点項目、家族同士の交流会、経験豊富な介護士からの助言の機会等が生まれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働き方改革により残業を減らし有休休暇取得日数が増えている。半期毎に個人目標を設定し努力を評価し、就業内容などを総合的に評価している。	働き方改革により残業を減らし有休休暇取得日数が増えている。半期毎に個人目標を設定し努力を評価し、就業内容などを総合的に評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数により法人内コース研修を実施したり、全職員対象の研修会を行ったり、法人外研修への参加を促し内容によっては研修費の補助を行い学習への参加を促している。	経験年数により法人内コース研修を実施したり、全職員対象の研修会を行ったり、法人外研修への参加を促し内容によっては研修費の補助を行い学習への参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム交流会に参加し、情報交換をおこなっている。他事業所のイベントに参加している。	地域のグループホーム交流会に参加し、情報交換をおこなっている。他事業所のイベントに参加している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1丁目)	自己評価／ユニットB(2丁目)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			(事業所記入欄) 実施状況	(事業所記入欄) 実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より事前に訪問し、入居後も情報を元に深く関わり、表情などに気を配り入居者の事をより理解できるよう努めている。	入居前より事前に訪問し、入居後も情報を元に深く関わり、表情などに気を配り入居者の事をより理解できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の苦労や不安を十分に聞く機会をもち、気持ちに寄り添えるよう努力をしている。	家族の苦労や不安を十分に聞く機会をもち、気持ちに寄り添えるよう努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話す機会を十分に設け、求めに応じ安心して暮らせる事を伝え、受け止める努力をしている。 必要があれば多職種への協力を依頼している。	話す機会を十分に設け、求めに応じ安心して暮らせる事を伝え、受け止める努力をしている。 必要があれば多職種への協力を依頼している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、洗濯、調理、趣味活動など生活を共に過ごし、できるだけ寄り添えるように努力している。	掃除、洗濯、調理、趣味活動など生活を共に過ごし、できるだけ寄り添えるように努力している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月々の行事予定をご案内したり日々の様子をお伝えしたり、誕生日を一緒にお祝いしたり家族にも行事に参加してもらうなど家族とともに支援していけるようにしている。	月々の行事予定をご案内したり日々の様子をお伝えしたり、誕生日を一緒にお祝いしたり家族にも行事に参加してもらうなど家族とともに支援していけるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1丁目)	自己評価／ユニットB(2丁目)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			(事業所記入欄) 実施状況	(事業所記入欄) 実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方の家族にも日々の活動の様子を写真つきで送付したり、面会に来ていただいた時はゆっくり過ごしていただくように配慮したり、積極的に訪問したり関係性が途切れないよう支援している。	遠方の家族にも日々の活動の様子を写真つきで送付したり、面会に来ていただいた時はゆっくり過ごしていただくように配慮したり、積極的に訪問したり関係性が途切れないよう支援している。	かつての友人に訪ねてもらったり、地域のホタル祭りに出かけ、知り合いと顔を合わせて言葉を交わす機会もある。散歩の途中にある祠に手を合わせる利用者もある。長年つきあっている理美容室に家族や職員の支援で出かける方もある。家族の協力で彼岸詣りやお盆・正月等の一時帰宅する利用者への支援もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士同じテーブルにしたり、作業や活動をテーブルを囲んで出来るよう支援し、孤立する方がいないよう支援している。	気の合う方同士同じテーブルにしたり、作業や活動をテーブルを囲んで出来るよう支援し、孤立する方がいないよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同じ敷地内の老健への入所の場合は面会に行き、積極的に訪問したりしている。必要があれば電話をしたり面会したりしている。	同じ敷地内の老健への入所の場合は面会に行き、積極的に訪問したりしている。必要があれば電話をしたり面会したりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中での会話や行動、以前の生活歴より本人の思いを把握して、支援できるよう努力している。	日々の生活の中での会話や行動、以前の生活歴より本人の思いを把握して、支援できるよう努力している。	利用者の心に寄り添いながらの会話やつぶやき、目線、行動等からキーワードを把握するように努めている。毎朝の集まりの時間に、体操や日付の確認をする中で暮らしへの希望や、日頃の思いが聴ける事がある。把握したことはケース記録に残している。また利用者のストレスが無いかを含めて、その真意を話し合い、支援に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1丁目)	自己評価／ユニットB(2丁目)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			(事業所記入欄) 実施状況	(事業所記入欄) 実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に一人ひとりの生活史や生活歴を作成し、家族の面会時に尋ねたり、日々の会話を行う事でその時の様子をより詳しく知るよう努めている。	入居前に一人ひとりの生活史や生活歴を作成し、家族の面会時に尋ねたり、日々の会話を行う事でその時の様子をより詳しく知るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当者がアセスメントを行い、カンファレンスを行い、本人の状況を全体で把握できるよう努めている。	担当者がアセスメントを行い、カンファレンスを行い、本人の状況を全体で把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なケアカンファレンス、担当者会議を行い、それぞれの意見をもとに介護計画を作成している。	定期的なケアカンファレンス、担当者会議を行い、それぞれの意見をもとに介護計画を作成している。	法人内の研究会で「個別ケアの充実・ケアプランを考える」を発表している様に、利用者主体の具体的で実行可能な介護計画が作成されている。計画作成の担当者と各職員と十分な連絡を取り合い、情報を共有しながらの計画作成である。担当者会議には家族も参加し、利用者や家族の意向を十分に反映した計画である。計画の見直しや評価は、定期的にまたは、随時に利用者の状況を確認しながらきちんとしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づいた日々の記録が出来ており、ケアの実践、見直しに活かしている。	ケアプランに基づいた日々の記録が出来ており、ケアの実践、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他事業所へのレクリエーション参加、出張散髪の利用、自宅への外出などをおこなっている。	他事業所へのレクリエーション参加、出張散髪の利用、自宅への外出などをおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1丁目) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2丁目) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前働かれていた職場に行ったり、地元の祭りに行ったりしている。	以前働かれていた職場に行ったり、地元の祭りに行ったりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの専門医への受診の継続や必要時は本人、家族の希望に添って適切な医療が受けられるよう配慮している。 月に2回訪問診療があり、医師との情報交換はできている。	入居前からの専門医への受診の継続や必要時は本人、家族の希望に添って適切な医療が受けられるよう配慮している。 月に2回訪問診療があり、医師との情報交換はできている。	利用者や家族が希望する医療機関での受診であるが、もともと母体病院(協力医)での受診者が殆どである。以前のかかりつけ医での受診希望には、紹介状の支援もしている。家族の協力を得ての受診であるが、それが出来ない場合はスタッフが付き添っている。協力医とは何時でも相談や受診ができ、月2回の定期的な往診もある。歯科医にも往診をお願いしているが、外出を兼ねて家族と共に受診する利用者もある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を常勤配置している。日常の身体的変化を相談し、看護師は主治医へと報告、相談している。	看護職員を常勤配置している。日常の身体的変化を相談し、看護師は主治医へと報告、相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との情報交換を行い、家族とも相談しながら適切な期間で退院できるように努めている。	医療機関との情報交換を行い、家族とも相談しながら適切な期間で退院できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1丁目)	自己評価／ユニットB(2丁目)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			(事業所記入欄) 実施状況	(事業所記入欄) 実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族、主治医と相談しながら方針を決め、共有し支援に取り組んでいる。	本人や家族、主治医と相談しながら方針を決め、共有し支援に取り組んでいる。	利用契約時に「重度化・看取り介護」についての指針を基にして、十分な話し合いがもたれている。納得された利用者・家族から同意書ももらっているが、容態の状況変化に伴い、その都度、家族とは何度も話し合いを重ねている。自然の流れに沿い、最期の居場所、安心出来る所として、利用者の最期を見送った事例も数例ある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練が出来ていないため、今後勉強会の計画、実施が必要。	定期的な訓練が出来ていないため、今後勉強会の計画、実施が必要。	/	/
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練と水害訓練は地元消防団・消防署の協力により、定期的に行っているが、地震についても訓練が必要。	火災訓練と水害訓練は地元消防団・消防署の協力により、定期的に行っているが、地震についても訓練が必要。	法人全体の避難訓練とは別に、ホーム独自に年2回の火災想定での避難訓練を実施している。夜間を想定し、夕刻の暗くなり始める時間帯での訓練である。 ハザードマップに含まれる地形の特徴から想定される水害、ため池決壊による山津波に対しては、地域や行政と協力して対策を練っている。非常食、飲料水の備蓄もある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の人格を踏まえ、入浴や排泄の時などプライバシーに配慮して言葉かけする時は近くに行って話しかけるよう心がけている。 一人一人に沿った言葉かけや援助を行っている。	個人の人格を踏まえ、入浴や排泄の時などプライバシーに配慮して言葉かけする時は近くに行って話しかけるよう心がけている。 一人一人に沿った言葉かけや援助を行っている。	利用者の人権と尊厳の尊重は、事業所開設以来の大原則である。利用者のこれまでの生活歴の中で、頑張ってきたこと、自慢、印象に残っている事を受け止め、支援にあたっている。また、利用者の心の声を受け止める、気持ちの無視をしない、耳を傾ける、命令口調にならない、嫌な気持ちや恥ずかしい思いをさせない等を接遇の一つとして実践している。 個人情報等の管理は、運営規程に基づいてきちんと守られている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1丁目)	自己評価／ユニットB(2丁目)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			(事業所記入欄) 実施状況	(事業所記入欄) 実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その都度本人の思いや希望を尋ねたり、話しかけたりし本人の意思を表現できるようにしている。	その都度本人の思いや希望を尋ねたり、話しかけたりし本人の意思を表現できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時々様子や希望に沿ってその日その日に合わせた支援が出来るよう努めている。	その時々様子や希望に沿ってその日その日に合わせた支援が出来るよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人用の化粧品を準備したり、髪染めをしたり、おしゃれしてお出かけしたり、その人らしい生活ができるよう支援している。	本人用の化粧品を準備したり、髪染めをしたり、おしゃれしてお出かけしたり、その人らしい生活ができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの能力に応じた準備や片付けを行ってもらっている。	それぞれの能力に応じた準備や片付けを行ってもらっている。	数年前まではホームの台所で調理していたが、現在は法人の厨房で調理したものを配膳している。管理栄養士による献立で、薄味の高齢者向けの食事である。その際、利用者が食べやすいように手間をかけている。ゆっくりとした食事風景でお替わりの希望にも応じている。食事介助が必要な方には、声をかけながらの支援である。食べ終わった食器を揃えている利用者もいた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせ食事量にこだわらず、補助食や嗜好品をあわせて提供することにより、必要なカロリーや水分量が摂取できるよう支援している。	一人ひとりの状態に合わせ食事量にこだわらず、補助食や嗜好品をあわせて提供することにより、必要なカロリーや水分量が摂取できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1丁目) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2丁目) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに対し言葉をかけ援助を行い、口腔ケアができるようにしている。 口腔内の状態に合わせて、ブラシやスポンジ、口腔ケア用ウエットティッシュを使っている。	毎食後、一人ひとりに対し言葉をかけ援助を行い、口腔ケアができるようにしている。 口腔内の状態に合わせて、ブラシやスポンジ、口腔ケア用ウエットティッシュを使っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を使用しその人その人に合わせて支援することで、トイレで不安を与えることなく排泄でき、なるべくオムツを使用しないよう支援している。	排泄チェック表を使用しその人その人に合わせて支援することで、トイレで不安を与えることなく排泄でき、なるべくオムツを使用しないよう支援している。	自立している利用者もいるが、さりげなく見守り、任せたままにはしていない。日中はできるだけトイレでの排泄を主にし、排泄のサインや身体の状態に合わせて、言葉かけを工夫した誘導である。入居直後より、おむつからリハビリパンツに代わったり、トイレ利用が多くなった方もいる。便座周りの手すりはもとより、可動式肘掛の設置もあり、自立を助けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を毎日チェックし、一人ひとりについて対応方法が決まっている。便秘傾向の方には水分摂取や運動を促している。	排便状況を毎日チェックし、一人ひとりについて対応方法が決まっている。便秘傾向の方には水分摂取や運動を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	希望があれば対応したり体調に合わせて入浴する日を調整したりしている。	希望があれば対応したり体調に合わせて入浴する日を調整したりしている。	一日おきの入浴を基本にしているがそれに捉われないことなく、希望に応じた入浴支援である。入浴時間帯の希望も尋ねたり、気持ちが進んだ時に声をかけている。車椅子使用の方には職員二人で支援している。浴室には入浴の具体的な支援方法が掲示してある。季節によっては菖蒲湯や柚子湯を楽しんでもらっている。冬場は特にヒートショックにも配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況に合わせて眠りたい時に安心できる場所で休息できるよう支援している。	一人ひとりの状況に合わせて眠りたい時に安心できる場所で休息できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1丁目)	自己評価／ユニットB(2丁目)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			(事業所記入欄) 実施状況	(事業所記入欄) 実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬ノートを活用したり、服薬管理表や熱型表、情報用紙などに記載し、一人ひとりの薬の内容を理解し、症状の変化が観察できるようにしている。	お薬ノートを活用したり、服薬管理表や熱型表、情報用紙などに記載し、一人ひとりの薬の内容を理解し、症状の変化が観察できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花の手入れや家事に参加したり、趣味を活かしたり、好きなものを食べたり、天気の良い日は散歩や外出を行い楽しくすごせるように支援している。	花の手入れや家事に参加したり、趣味を活かしたり、好きなものを食べたり、天気の良い日は散歩や外出を行い楽しくすごせるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敷地内を自由に散歩できたり、希望があれば家族と協力し自宅へ外出したり出来るようにしている。	敷地内を自由に散歩できたり、希望があれば家族と協力し自宅へ外出したり出来るようにしている。	広々としたビレッジの敷地内を散策したり、ホームの周りに整備された散歩コースを散歩している。車椅子利用の方も一緒に散歩したり、外気浴で室内とは違う空気を感じている。花見や紅葉狩り、ホテル見学などの楽しみもある。最近まで近くのお店に買い物にも行っていたが、お店が閉まり、現在は出かけていない。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	手持ちの財布を自己管理されている方もおられるが、ほとんどの方がスタッフ管理している。	手持ちの財布を自己管理されている方もおられるが、ほとんどの方がスタッフ管理している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1丁目) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2丁目) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や贈り物が届くとお礼の電話をかけたり友人や家族への手紙を出せるよう支援している。	手紙や贈り物が届くとお礼の電話をかけたり友人や家族への手紙を出せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や貼り絵を飾ったり写真を飾ったり、テレビの音やカーテンでの光の調整を行い心地よく過ごせるようにしている。	季節の花や貼り絵を飾ったり写真を飾ったり、テレビの音やカーテンでの光の調整を行い心地よく過ごせるようにしている。	室内は自然光で明るく、外からの騒音も全く無く静かな環境である。夏場は、西日をブラインドで遮っている。フロアはテーブルやソファが工夫して配置されており、利用者は、気にいった場所で思い思いに過ごしている。外の芝生にはベンチやテーブルが置かれ、そこでお茶やおやつを楽しむこともできる。室内のどこも清掃が行き届き、清潔感がある。嫌な臭いも全く無い。利用者が制作したちぎり絵が季節を感じさせる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファに座ったり、気の合う方のテーブルへ自由に移動したり、促したりして落ち着いて過ごせるよう支援している。	ソファに座ったり、気の合う方のテーブルへ自由に移動したり、促したりして落ち着いて過ごせるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際や面会時に家族と相談し、なじみの家具を配置し、写真や手紙、その方の作品などを飾り、居心地良く過ごせるよう工夫している。	入居の際や面会時に家族と相談し、なじみの家具を配置し、写真や手紙、その方の作品などを飾り、居心地良く過ごせるよう工夫している。	居室の入口の障子模様は、柔らかい雰囲気を感じさせる。居室は利用者の状況によって、低床ベットが使用されている。馴染んだ品や好みの物の持ち込みには、特に制限は無い。家族写真、使い慣れた机や椅子、時計、鏡、色紙、お気に入りの服などで、その方を思わせる各居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室など分かりやすく表示したり、日時や時計を見やすい所に設置することで理解し行動しやすいように支援している。	トイレや浴室など分かりやすく表示したり、日時や時計を見やすい所に設置することで理解し行動しやすいように支援している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)				
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
↓該当するものに○印をつけてください				
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の
				2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない